

| 授業科目 | 科目概要・形式 | 配当年次 | オンライン参加 |
|--|---------------------------------|-----------------|-----------------|
| 健康栄養科学特論 | 2単位30時間(15コマ) 講義科目 | 博士前期1年次 後期開講 | ☑・不可 (下記7参照) |
| 科目責任者 | 七島 直樹 | | |
| 担当者 | 井澤 弘美、今 淳、佐藤 伸、七島 直樹、乗鞍 敏夫、清水 亮 | | |
| 1. 科目のねらい・目標 | | | |
| 今日の「健康と栄養と食」の関わりを理解するために、健康の保持・増進となるライフスタイルをはじめ、抗加齢、生活習慣病の発症や予防改善、食品の利用、物性などに関する高度の専門知識やそれらを論理的に説明できる力を身に付ける。これにより、「栄養学」の専門家としての学識・技術をさらに特化・強化するとともに、各自の研究推進に役立つ基盤を培う。 | | | |
| 2. 授業計画・内容 | | | |
| *この科目は選択した科目担当者が担当します。 | | | |
| <p>【井澤弘美】(3コマ)</p> <p>食品安全の最新知見を学び、未解決問題に取り組む下地を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境汚染物質を経口摂取したときの毒性発現メカニズムの解明 ・食品由来の健康リスク因子の影響評価 | | | |
| <p>【今 淳】(2コマ)</p> <p>皮膚のエイジング及びアンチエイジングについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エイジングの機構，病態を理解する。 ・アンチエイジングのための治療・予防に関して，医薬，食品，生薬，ハーブ，アロマなどの効能や是非を理解する。 | | | |
| <p>【佐藤 伸】(2コマ)</p> <p>糖尿病、肥満および高血圧などの発症・進展に関わる酵素やタンパク質の生理機能に関する知識を身に付けて、各自の研究課題を進める上でヒントとなるように、以下のテーマを中心に分子栄養学的に学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピジェネティクスの観点から胎生期の栄養状態環境で生じる肥満の発症の分子機構について。 ・糖・脂質代謝におけるシグナル伝達経路とこれに関わる植物由来ポリフェノールの生理的役割について。 | | | |
| <p>【七島 直樹】(2コマ)</p> <p>更年期症状について理解し、症状を軽減する食品の機能性成分（フィトエストロゲン）とその解析法について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更年期症状の原因、症状および治療法について ・フィトエストロゲンの種類と含有する食品について ・フィトエストロゲン効果の解析法および最新の研究動向 | | | |
| <p>【乗鞍 敏夫】(3コマ)</p> <p>以下のテーマで基礎栄養学の最新の知見を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の必要量の設定根拠となる実験方法 ・遺伝子データベースを活用方法 (Primer Blast、Primer3 など) | | | |

【清水 亮】(3コマ)

以下のテーマで栄養管理に関する最新の知見を学ぶ。

- ・高齢期における生活習慣病とフレイルの両方を視野に入れた食事・栄養療法について
- ・栄養管理プロセスについて

3. 教科書、参考書

- ・特に教科書は指定しません。各教員が資料を配布します。

4. 成績評価方法

- ・レポート(80%)と授業参加状況(積極的な発言・質問等)(20%)で評価します。

5. 受講要件

特に、ありません。

6. 社会人学生に対する配慮

- ・夜間開講や土日開講などの配慮をします。詳細については各担当教員と相談してください。

7. その他

- ・オンライン授業で使用するシステムについては、予め、各教員と相談してください。たとえば、Webexを使用する場合、予め、各教員は、教員自身がおもつミーティング番号を受講生にお知らせします。
- ・授業に対する意欲や内容に対する積極的な発言を強く求める授業になります。